

2021年度イラク・小児がん支援事業支援報告



■実施地域：イラク共和国クルド自治区

■支援対象者：小児がん患者、患者家族、貧困患者家族

概要

2021年度は新型コロナウイルスの影響もほぼ受けることなく、支援活動を実施することができた。

しかし感染拡大に伴い、世界各国同様、経済が悪化し多くの失業者を出した。日雇い労働者は職を失い、飲食店なども政府からの支援がないことで大きな影響を受けた。物価の上昇も相俟って、貧困患者は増加し、貧困患者支援が全く追いていない状況である。

3年目を迎えたJIM-NETハウスでは、院内学級の活動内容も充実し、患者家族を対象としたピアサポートも開始するなど利用者のニーズに沿った支援を行っている。

1. 病院への医療支援及び医薬品提供

病院側からの要請を基に、抗がん剤やがん治療に必要となる医薬品を購入し、病院に納品した。病院への医薬品の配給量及び配給ペースを調査したところ、保健省へのリクエストから実際の配給まで約3ヶ月の時差が存在するということが判明し、JIM-NETは治療に必要な医薬品を迅速に支援することが出来ている。支援額は年間36,000USD（約410万円）となった。※1USD=114円換算

2. 貧困患者支援

病院に在庫していない医薬品を外部で購入するための購入支援及び病院に通院するための交通費支援に加え、PET検査やその他実費での検査費用の一部を支援した。前年度から増額して対応していたが、月々の予算は1週間ほどで底をついてしまう状況である。支援回数はローカル329件、国内避難民（IDP）・難民で220件実施した。6月より合計31回の家庭訪問を実施した。コロナ禍で困窮する患者家族も多く、貧困患者支援を実施する際に行う家庭訪問では、一ヶ月の収入が約17,000円以下の家庭が14.3%、約42,000円以下が46.4%という調査結果が得られた。改めてがん治療に係る費用が患者家族の生活を逼迫させているかが浮き彫りとなつた。

2022年度は更なる予算の増額で対応する。

2. JIM-NETハウスにおける心理社会的な支援

6部屋ある宿泊部屋では年間77家族を受け入れ、満室の場合は教室や相部屋での宿泊をお願いするなどして対応した。一日平均利用者は11.7人、年間の利用者延べ人数は4,291人となった。宿泊サービスは経済的、身体的、精神的な支えとなり、開所以来ニーズが高いサービスとなっている。院内学級では、毎日8-12人の子どもたちが通い、子どもの学力測定を行い、子どもたちに合わせた内容や目標を設定して実施した。ピクニックやテーマパーク（地元企業からの招待）など治療を受ける子どもたち同士の交流の機会を作ることができた。また、患者家族同士の情報交換や悩みを打ち明ける場としてのピアサポートを8回実施した。オンラインで日本の児童心理専門の医師にも適宜アドバイスをもらいながら実施し、参加者から高評価を得ている。継続の要望も多く、今後は日本から専門家を招聘し、患者家族への心理社会的支援の充実を図っていきたい。



絵を描くことが大好きな子どもたちが沢山います。日本とオンラインで繋ぎ、絵の描き方も学びながら色々な絵を描いています。



医薬品はリクエストを出してから納品まで約3ヶ月かかる上に、十分な量が供給されないこともあります。JIM-NETでは迅速に支援を行っています。



21年度はコロナの影響をほぼ受けずに活動が実施できました。気候のいい時期はピクニックを計画し、子どもたちと出かけました。



JIM-NETハウスでは元気な子どもたちも、病棟では厳しく辛い治療に立ち向かっています。



今年度は学力測定を導入し、個々に応じたきめ細やかな指導が行き届くような教育支援を実施しました。



「だるまさんが転んだ」が大人気！天気が良いと外で遊ぶこともあります。子どもたちが大好きな時間です。